

総説 日本ヘルスリテラシー学会の設立と同学会誌の発刊 Establishment of Japanese Health Literacy Association and Its Official Journal

木内貴弘¹⁾、中山健夫²⁾、石川ひろの³⁾、奥原剛¹⁾、中山和弘⁴⁾、
杉森裕樹⁵⁾、孫大輔⁶⁾、安村誠司⁷⁾、八巻知香子⁸⁾、江口泰正⁹⁾、福田洋¹⁰⁾

Takahiro Kiuchi¹⁾, Takeo Nakayama²⁾, Hirono Ishikawa³⁾, Tsuyoshi Okuhara¹⁾, Kazuhiro Nakayama⁴⁾, Hiroki Sugimori⁵⁾, Daisuke Son⁶⁾, Seiji Yasumura⁷⁾, Chikako Yamaki⁸⁾, Yasumasa Eguchi⁹⁾, Hiroshi Fukuda¹⁰⁾

1)東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野、2)京都大学大学院医学研究科健康情報学、3)帝京大学大学院公衆衛生学研究科、4) 聖路加国際大学大学院看護学研究科、5)大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科、6)鳥取大学医学部地域医療学講座、7)福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、8)国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部、9) 産業医科大学産業保健学部、10)順天堂大学大学院医学研究科先端予防医学・健康情報学講座

1)Department of Health Communication, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 2)Department of Health Informatics, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 3)Teikyo University Graduate School of Public Health, 4) Graduate School of Nursing Science, St. Luke's International University, 5) Department of Nursing, Faculty of Sports and Health Science, Daito Bunka University, 6) Department of Community-based Family Medicine, Faculty of Medicine, Tottori University, 7)Department of Public Health, Fukushima Medical University School of Medicine, 8)Division of Cancer Information Service, Institute for Cancer Control, National Cancer Center, 9)School of Health Sciences, University of Occupational and Environmental Health, 10) Department of Advanced Preventive Medicine and Health Literacy, Graduate School of Medicine, Juntendo University

Abstract

Health literacy can be defined as the ability of patients and other people to locate accurate health information, understand and utilize it, and finally to incorporate it into appropriate health behavior. It has been established that individuals with high health literacy tend to adopt appropriate health behavior; accordingly, they are less vulnerable to disease, and disease is less serious even if they do suffer from one. Recently, health literacy has attracted considerable worldwide attention among health researchers, including those in Japan. There has been an international increase in the number of papers dealing with this subject; dedicated international academic societies and a dedicated journal, Health Literacy Research and Practice, have been established overseas. Consequently, the present authors established the Japanese Health Literacy Association (JHLA) in 2019 and launched its official journal (Health Literacy) in 2022. Health literacy and health communication are closely related; thus, JHLA has come to merge its headquarters with those of the Japanese Association of Health Communication (JAHC), and JHLA holds its academic meetings together with JAHC in the framework of Health Communication Week. We expect further developments in research related to health literacy in Japan as a result of the founding of JHLA.

要旨

ヘルスリテラシーとは、一般に、患者や市民が健康に関連する情報を探し出して、理解し、意思決定に活用して、適切な健康行動につなげる能力のことをいう。ヘルスリテラシーの高い人は、適切な健康行動をとりやすく、その結果、疾病にかかりにくく、かかっても重症化しにくいことが知られている。近年、ヘルスリテラシーが国際的に大きな注目を浴びている。ヘルスリテラシーを扱う論文が世界で急増しており、既に国際学会や英文専門雑誌 (Health Literacy Research and Practice) も設立されている。日本においても、ヘルスリテラシー関連の論文や学会発表が急激に増えており、関係者の関心も高まっている。このため、著者らは、2019年に日本ヘルスリテラシー学会を設立し、2022年に日本ヘルスリテラシー学会誌 (本誌) を創刊した。ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーションは、お互いに裏表となるような密接な関係があるため、日本ヘルスコミュニケーション学会と協議の上、同学会と学会事務局を共有し、学術集会もヘルスコミュニケーションウィークという枠組みで共同で開催することになった。日本ヘルスリテラシー学会の設立と同学会誌の創刊が、今後の日本のヘルスリテラシー研究の一層の発展の貢献していくことが期待される。このためにも国内のヘルスリテラシー研究者への参加の呼びかけが必要である。

キーワード：ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、学会、学術集会、学術雑誌

Keywords: health literacy, health communication, academic society, academic meeting, academic journal

1. はじめに

ヘルスリテラシーとは、一般に、患者・市民が健康に関連する情報を探し出し、理解して、意思決定に活用し、適切な健康行動につなげる能力のことをいう[1]。ヘルスリテラシーの厳密な定義については多くの様々な議論があり、現時点で関係者の間でコンセンサスは得られていない[2]。ヘルスリテラシーは、医療者・患者間の対人コミュニケーション、マスコミ・インターネット等による健康医療のメディアコミュニケーション、ヘルスキャンペーン等を進めるにあたって、常に医療者が考慮すべき重要な要素であるが、ヘルスリテラシーをあまり考慮しないで、ヘルスコミュニケーションが試みられることもまだ多い。ヘルスリテラシーの高い人は、適切な健康行動をとりやすく、その結果、疾病にかかりにくく、かかっても重症化しにくいことが知られている[3]。介入によりヘルスリテラシーを向上させることができるかどうか、また介入によるヘルスリテラシー向上が実際の健康増進や疾病の予防・軽減に役立つかどうかについては、まだ十分なエビデンスはなく、今後の研究による解明が期待されている[4]。

2. 国際的に大きな注目を集めるヘルスリテラシー

近年、ヘルスリテラシーが国際的に大きな注目を集めており、ヘルスリテラシーを取り扱った英文論文が急激に増えてきている(図1)。こうした状況に関連して、米国及び欧州やアジアの主要国に、専らヘルスリテラシーを対象とした学会が設立されるようになってきており、世界全体をカバーする国際学会として、International Health Literacy Association(IHLA)が設立されている他、欧州地域の国際学会として Health Literacy Europa、そしてアジア地域の国際学会として Asian Health Literacy Association:(AHLA)が設立されている[5-7]。またヘルスリテラシーに関する英文専門雑誌 Health Literacy Research and Practice も 2017 年に創刊されている[8]。

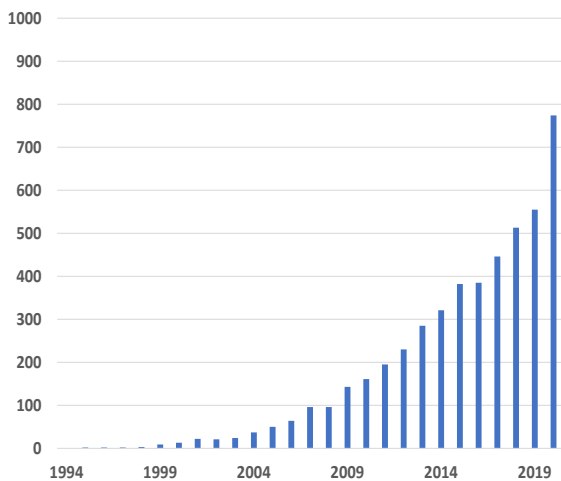


図1. PubMedで題名に"health literacy"を含む論文数

3. 日本における学会設立と学会誌の創刊

日本においても、近年、ヘルスリテラシーに関する研究活動が活発化している(図2)。またヘルスリテラシーを専ら対象として書籍も出版されるようになってきている[9-10]。しかしながら、ヘルスリテラシーは、臨床医学、公衆衛生学、薬学、看護学、栄養学、社会福祉学等の多岐の分野に渡って、縦割りで研究が行われており、研究者の横のつながりがあまりなかった。このような日本の状況に鑑みて、木内貴弘と中山健夫が打ち合わせを行い、石川ひろの、奥原剛、中山和弘の3名に働きかけて、2019年に日本ヘルスリテラシー学会を設立し、関連の研究者に参加の呼び掛けが行われた[1]。

ヘルスコミュニケーションを考えるときには、必ず相手のヘルスリテラシーを考慮しなければならない。逆にヘルスリテラシーを考えるときには、ヘルスコミュニケーションが行われることが暗黙の前提となる。(通常の意味での)ヘルスコミュニケーションは、勿論双方向だが、狭義には、ヘルスコミュニケーションという場合には医療者側(伝える側)からの視点、ヘルスリテラシーという場合には患者・市民(受け取る側)からの視点(どちらかという)重視されていることが多いと思われる。また(通常の意味での)ヘルスリテラシーは、患者・市民の能力を指すが、医療者側がわかりやすく正確に患者・市民に伝える能力を「医療者のヘルスリテラシー」と呼ぶ立場もある[11]。この場合、医療者のヘルスリテラシーと通常の患者・市民のヘルスリテラシーを合わせたものが広義のヘルスリテラシーであるとも考えられる。このようにヘルスリテラシーは、ヘルスコミュニケーションと表裏一体の関係にあると考えている(図3)。

以上のようなヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシーの関係を踏まえて、日本ヘルスリテラシー学会は、日本ヘルスコミュニケーション学会と協議を行い、日本

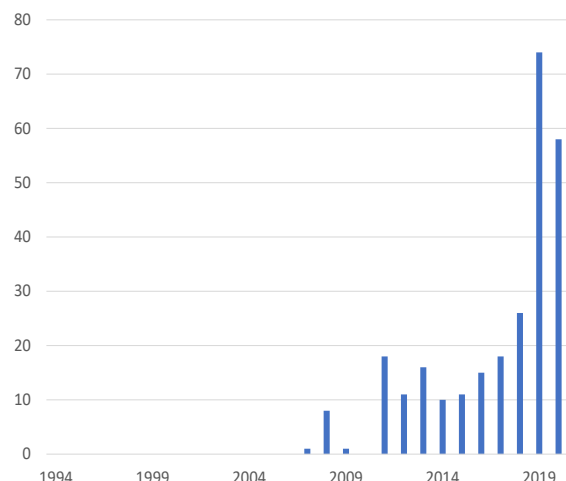


図2. 医学中央雑誌で題名に「ヘルスリテラシー」を含む論文数

【通常の】ヘルスコミュニケーション (≒【広義の】ヘルスリテラシー) (伝える側と受け取る側の両方の視点)	
【狭義の】ヘルスコミュニケーション (≒【医療者の】ヘルスリテラシー) (伝える側の視点を重視)	【通常の】ヘルスリテラシー (受け取る側の視点を重視)

図3. ヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシー

ヘルスコミュニケーション学会の分科会として、事務局、会員管理システムを共有して運営を行うことになった。日本ヘルスコミュニケーション学会との合流後、杉森裕樹、孫大輔、安村誠司、八巻知香子、江口泰正、福田洋が運営委員として参加するようになった[1]。2022年度には、日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構が設立され、日本ヘルスリテラシー学会は、日本ヘルスコミュニケーション学会の分科会という形でなく、同機構による共通の事務局・会員管理体制のもと、日本ヘルスコミュニケーション学会と対等の立場で運営が行われるようになった。

第1回日本ヘルスリテラシー学会学術集会は、ヘルスコミュニケーションウィーク (Health Communication Week=HCW) という枠組みで、第13回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会、第1回日本メディカルコミュニケーション学会学術集会と一緒に開催され、河口浩之教授を中心とする広島大学の先生のご尽力のもと大成功を収めた[12]。2022年度以降もヘルスコミュニケーションウィークという枠組みで、ヘルスコミュニケーション学関連の諸学会が共同で学術集会を開催する方針が決まっている。

本誌 (日本ヘルスリテラシー学会雑誌創刊号) は、第1回日本ヘルスリテラシー学会のシンポジウムの特集号となっており、シンポジウムの講演を総説論文として掲載している。詳細は、次ページ以降の「特集号のご案内」と掲載論文をご参照願いたい。

4. 考察

国内外におけるヘルスリテラシー研究の急速な発展と、海外におけるヘルスリテラシーを専門的な対象とする学会の設立が進む状況のもとで、ヘルスリテラシーを専門に取り扱う日本ヘルスリテラシー学会を設立し、その学会誌の発刊したことは、下記のような重要な意義を持つと考える。

- 1) 縦割りの学問領域の中で、お互いの交渉がなく、独立して研究を行ってきた国内のヘルスリテラシー研究者が、ヘルスリテラシーというキーワードのもとに集まれる場を提供できるようになったこと
- 2) 国際的なヘルスリテラシー研究の発展の中で、海外のヘルスリテラシーに関する学会コミュニティ活動や国際

共同研究に対応可能な国内の受け皿ができたこと

日本ヘルスリテラシー学会の設立とその学会誌の創刊が、今後の日本のヘルスリテラシー研究の一層の発展に大きく貢献していくことが期待される。またこのためにも国内のヘルスリテラシー研究者への幅広い参加の呼びかけが必要であると考えられる。

利益相反自己申告

本論文に関して、申告すべき利益相反はない。

引用文献

- [1] 日本ヘルスリテラシー学会. 日本ヘルスリテラシー学会ホームページ. <http://plaza.umin.ac.jp/HealthLiteracy/> (2021年11月1日アクセス)
 - [2] Parker, R. M. and Ratzan, S. (2019) Re-enforce, Not Re-Define Health Literacy-Moving Forward with Health Literacy 2.0. *Journal of Health Communication*, 24, 923-925. 10.1080/10810730.2019.1691292.
 - [3] Institute of Medicine (US) Committee on Health Literacy. *Health Literacy: A Prescription to End Confusion*. Nielsen-Bohlman L, Panzer AM, Kindig DA, editors. Washington (DC): National Academies Press (US); 2004. PMID: 25009856.
 - [4] Nutbeam D, McGill B, Premkumar P. Improving health literacy in community populations: a review of progress. *Health Promot Int*. 2018 Oct 1;33(5):901-911. doi: 10.1093/heapro/dax015. PMID: 28369557.
 - [5] International Health Literacy Association (IHLA); 2021 [cited 2021 November 1]. Available from <https://i-hla.org/>
 - [6] Health Literacy Europa; 2021 [cited 2021 November 1]. Available from <https://www.healthliteracyeurope.net/>
 - [7] Asian Health Literacy Association (AHLA) ; 2021 [cited 2021 November 1]. Available from <https://www.ahla-asia.org/>
 - [8] Health Literacy Research and Practice; 2021 [cited 2021 November 1]. Available from <https://journals.healio.com/journal/hlrp>
 - [9] ドン ナットビーム, イローナ キックブッシュ (島内憲夫、大久保菜穂子、鈴木美奈子訳). ヘルスリテラシーとは何か? —21世紀のグローバル・チャレンジ (21世紀の健康戦略シリーズ) 2017、垣内出版
 - [10] 福田洋、江口泰正 (編). ヘルスリテラシー : 健康教育の新しいキーワード 2016、大修館書店
 - [11] Ancker, J. S., Grossman, L. V. and Benda, N. C. (2020) Health Literacy 2030: Is It Time to Redefine the Term? *Journal of General Internal Medicine*, 35, 2427-2430. 10.1007/s11606-019-05472-y.
 - [12] ヘルスコミュニケーションウィークホームページ. <http://healthcommunication.jp/hcw2021/> (2021年11月1日アクセス)
- *責任著者：木内貴弘、e-mail tak-kiuchi@umin.ac.